ミクロ経済学演習 8

矢野 誠

問 1．私の経験では，大学などで講義する際，大きな教室にほんの少数の学生が出席している場合には，学生が増えるごとに追加的教育効果が増大すると感じる．しかし，あまり，受講者が多数の場合に学生が増えると，追加的教育効果は縮小する．これについて，以下の設問に答えよ．

A．この事実を説明するためには，講義における生産物と生産要素が何かを考える必要がある．講義の生産物は学生が受ける教育の質（講義の良さ）と量（学生数）の積で示されることは言うまでもない．では，講義という生産活動の生産要素は何か．五つ挙げよ．

B．この問のはじめに述べた事実を設問 A で挙げた生産要素間の協力効果と混雑効果で説明せよ．その際，ボトルネックとして機能している生産要素は何か，二つ挙げよ．

問 2．短期の利益と長期の利益のトレード・オフを考えよ，というのは経済学の最も基本的なメッセージの一つである．

A．短期の利益を重視するあまり，長期の機会費用が正確に評価されず，最適な意思決定が行えない場合も多い．そのような例を二つあげ，説明せよ．

B．逆に，長期の利益を重視して，短期の機会費用が正確に評価されず，最適な意思決定が行えない場合もある．そのような例を二つあげ，説明せよ．

問 3. 企業は固定費用の値として $f = 1, 2, 3$ のどれかを設定でき，その場合の企業の総費用関数が

$$TC = y^3 - 4y^2 + (8 + \frac{1}{f})y + 10f$$

で示されるとして，以下の問に答えよ．

A.　目標生産量 y がどの範囲にあるとき，$f = 1$ という固定費用の水準を選ぶのがこの企業にとって長期最適か.

B.　目標生産量 y がどの範囲にあるとき，$f = 2$ という固定費用の水準を選ぶのがこの企業にとって最適か.

C. 目標生産量 y がどの範囲にあるとき，$f = 3$ という固定費用の水準を選ぶのがこの企業にとって最適か.
D. 企業の長期の総費用関数を求め，図示せよ.
E. 企業の長期の総限界費用関数を求め，図示せよ.

問 4. 長期には固定的な生産要素はないと考えるのが，長期的な企業行動を考える上では適切である．なぜか.

問 5. 短期の平均可変費用曲線と短期の限界費用曲線の交点は企業閉鎖点（または，操業停止点）と呼ばれることは，すでに述べた．この概念に平行して，長期平均費用曲線と長期限界費用曲線の交点は企業参入点と呼ばれる.
A. 企業参入点と呼ばれるのは，なぜか.（ヒント，教科書「ミクロ経済学の基礎」参照）
B. 操業停止点と企業閉鎖点という概念は，企業の参入の意思決定が長期の費用曲線にもとづいて行われ，操業停止の意思決定が短期の費用曲線にもとづいて行われると考えられていることを示している．なぜ，このような考え方が適切か説明せよ.